

冬から早春の乳牛の管理

乳牛は寒さに強いと言われていますが、最も適当な気温は摂氏 12 度までで、5 度以下になりますと、エネルギーの消化が多くなります。冬は乳牛が寒さに耐えるために自然に食欲が増進して来ますので、舎内の温度が 5 度以下に下りますと、維持飼料を標準の 20 から 30% 多く与えねばなりません。

長時間急激に温度が下ると、乳量が減る場合もあります。冬の間北や西の風が強い所では牛舎や運動場を寒い風から守るために、こもやむしろ、又は藁で防風垣を作る必要があります。牛舎は寒さを防ぐということを重点にして、換気ということを忘れ勝ちですから、新鮮な空気がいつも出入りするよう、換気窓をつける必要があります。また牛舎はよく乾燥させるために、床はいつも乾いていることがよいわけです。床を乾燥させるには、排尿や洗いの流れをよくし、糞などをあまりためておかず、日中は牛を舎外に出し、牛舎を開放して、十分通風と採光をはからねばなりません。又敷わらは多くして湿ったわらは、出来るだけ早く取り出します。又すきま風は牛の体に直接あたると害がありますから、入らないように注意しなければなりません。なお冬は運動不足になりがちですから、1 日に 1 時間か 2 時間、日光浴と運動をかねて、屋外に出すようにしましょう。然し余り強い風に吹きさらされるといことは、その寒さを 2 倍にも 3 倍にも感じますので、防風垣を作るのも良い方法です。特に仔牛や妊娠中の牛には良く気を付けて、1 日で 1 番温度の高い時を見はからって、運動場へ出すようにしましょう。冬の運動や日光浴を怠ると、ビタミン D が欠乏して、いかに飼料中に石灰があっても、石灰が同化しないので、骨軟症の原因となり、妊娠牛では分娩前後の起立不能、後産停滞、ケトージス等になりやすく、仔牛は骨が細い体積の乏しい牛になることが多いのです。冬は牛体は綿毛が多くなり、寒さが皮膚の血管を収縮して、血行が悪くなりますので、よく手入れをする必要があります。「垢 1 升到麦 1 升」とか言いますが、手入れは被毛の光沢をよくして、皮膚の

血液の循環を良くし、人との親和を増し、乳量を増加させることとなります。蚤の駆除にはよく手入れをしてやると同時に、DDT や BHC の粉剤を毛の中までよくすりこみ、1 週間位するとまた卵がかえって来ますので、1 週間おきに、2、3 回これを繰返さなければなりません。酷寒季には、牛体の水洗いはなるべくさけるために、敷わらを多くして、牛体を余り汚さぬようにしてやるのが望ましいのです。牛体の手入れは 1 日 2 回位行ない、これはブラッシと金櫛を用いるのですが、下から上にすりあげて、1 度毛を立て、こすり下すようにすれば、毛の中の垢がよくとれます。又乳房の長い毛は刈り取る必要があります。また冬の間は運動することが少ないので、蹄の手入れをすることが大切です。削蹄はぜひ実施して下さい。特に仔牛の蹄は軟いので、3 ヶ月に 1 回削蹄することによって、成牛になってからの肢勢をよくします。又妊娠牛の蹄は、特に延びていたり、先が尖っていると、乳頭や乳房を傷つけやすく、妊娠による体重の増加により、肢勢が悪くなりますので、妊娠末期にならない内に削蹄しましょう。削蹄も急激に蹄の型を良くしようとしないで、伸び過ぎておれば、少し削って 1~2 ヶ月後にもう 1 度削蹄するようにした方がよろしい。又舎内における時間が長いので、蹄間腐爛等を起しやすいものですから、蹄の間も良く掃除をしてやる必要があります。次に飼養についてですが、乾草を十分与えることが良いわけですが、未だ本県の現状では、栄養価値の低い稲わら等を多く与えている結果、栄養の不足やビタミン、カルシウム等ミネラルが不足し易く、冬から春にかけて色々の障害が出易い状態になっています。飼料を計画的に準備していなければ当然粗飼料が不足して、牛に空腹感を与えます。特に濃厚飼料の多給により、TDN 即ち熱量が不足して、体重の減少や仔牛の生長が悪かったり、乳量の減少を来します。又この反面濃厚飼料の多給は、DCP 即ち蛋白が過剰になり、繁殖障害や色々の病気のもとにもなりますので、少なくともサイレージを成牛で 1 日

岡山畜産便り 1962.02

18kg から 20kg と、乾草 5 kg その他に根菜類を 10kg 程度を与え、濃厚飼料は乳量の 1/2 から 1/3 程度にします。どうしても稲わらを使って濃厚飼料とビートパルプ、澱粉粕等を与える場合には、カルシウムを大体濃厚飼料の 2% 程度与えねばなりません。仔牛にはつとめて乾草を与え、しかも夕方多く与えるようにします。水は常に飲めるようにするのは勿論ですが、凍った水は与えないようにします。又冬に起り易い病気は下痢と感冒です。下痢は凍った飼料や水を与えたり早春の荳科の牧草の多給による場合が多く、特に仔牛の場合は床がいつも濡れていたりと、冷たい脱脂乳を与えた場合にも多く起ります。感冒はすきま風の入る牛舎や、換気の悪い牛舎に起り易いものです。分娩直後の母牛や仔牛は麻袋にでも体にかけてやり、急激な温度の変化で感冒に罹らないように注意してやりましょう。なお繁殖については 12 月から 2 月までが 1 年中で 1 番受胎率の高い時期ですから、発情をのがさず種付けをすることを心掛けて下さい。また生産された牛乳は出荷までに凍らさないよう工夫する必要もあります。

(酪試 小谷技師)

岡山で農村文化展開催予定

3 月 24 日から 28 日までの 5 日間、岡山市津島の県体育館を中心に、岡山県農村文化展が岡山県及び山陽新聞社の主催で開かれる。

この展覧会ではこれからの農業の夢やあり方を広く示して、農村の人々に希望を与えようというもので開催計画はつぎのとおりである。

1、場 所

- 第 1 会場 岡山県体育館
- 第 2 会場 津島運動公園
- 第 3 会場 岡山大学農学部

2、行 事

- 第 1 会場
 - これからの農業展
 - アメリカ農業四季展
 - 映画会・農事相談
- 第 2 会場
 - 近代農業機械展
 - 林業機械化展
- 第 3 会場
 - 大型農業機械展示及び実演